



☆目指す学校像☆

誰もが安心して過ごせる学校

☆目指す生徒像☆

自分で考え行動できる生徒

【学校教育目標】

自律・貢献・共生

所沢市立向陽中学校

所沢市向陽町2124 Tel04-2923-7201

令和3年度第13号

3月1日(火)

正義 VS. 正義

今年度、夏と冬にオリンピックが開かれたのは記憶に新しいことです。コロナ禍ではありますが、57年ぶりに日本で開催された東京オリンピック、そして同じ東アジアの中国で開催された北京オリンピックとそれぞれ、205の国と地域(夏季)、91の国と地域(冬季)が参加して盛大に行われました。平和の祭典とも言われる2つのオリンピックが終ったあと、ロシアが隣国であるウクライナを侵攻しました。

3年生が今年学んだ公民の教科書には「国際社会の仕組み」という單元があります。ここにはこう書いてあります。



世界には190余りの国家があり、ほとんどの人々はいずれかの国の国民として暮らしています。国家は、**国民、領域、主権**によって成り立っています。国家が主権を持つということは、自国をしっかりと統治する責任を負うと同時に、ほかの国に支配されたり干渉されたりしない権利(内政不干渉の原則)と、互いに対等である権利(主権平等の原則)を持つことを意味します。国際社会は主権を持つ国々(主権国家)を中心に構成されており、主権国家の間の国際関係は外交によって成り立ちます。

しかし、今、現実に一国が一国に攻め込むという事案が発生しています。では、なぜ、こうした戦いが始まってしまったのでしょうか。3年生の公民の教科書には「バター戦争」と題したコラムも登場します。

(あらすじ) タヌキ国とキツネ国という陸続きの国がありました。ある日、タヌキのおじいちゃんが孫を隣国との壁のところに連れていき、こんな話をします。

「お前も知っているように、壁のこちら側にはわしらの住むタヌキ国が、壁の向こう側にはキツネ国がある。キツネ国のやつらは、なんとおそろしいことに、バターをぬった側を下にしてパンを食べるのじゃ。しかし、わしらの住むタヌキ国では、バターは必ずパンの上にぬる。それこそが正直者のする方法じゃ。わしは若いとき、国境パトロールの仕事に就いておった。キツネ国のやつらがやってきたら、わしらが開発した優秀な武器でやつらを追っ払ったものじゃったよ」

こうして、タヌキ国とキツネ国は

「パンのどちら側にバターをぬるのが正しいか」

という論争から、互いに兵器開発を進めています。そして、ついに最強兵器を持ってこっぱみじんに相手をやっつけようというところまで来てしまします。

ロシアにはロシアの言い分もあります。ウクライナにはウクライナの言い分があります。しかし、国際法上、ロシアの行為は明らかに侵略行為とみなされ、いわゆる「西側」の国々はロシアに対する「制裁」を次々に発表しています。

1年生から3年生まで、本校ではSDGsに関する学びを総合的な学習の時間で続けてきました。今回の出来事はその「16 平和と公正をすべての人に」を脅かします。核兵器の恐ろしさ、焦土と化した国の様子をこの目で見てきた、おじいちゃん、おばあちゃんのいるわが国ができることはあるはずです。まずは何が起きていて、どうしていくことが可能なのか、「考えてみる」ということを卒業、進級という大きな成長にあたって皆さんでしてみませんか。

校長 沼田 芳行